



じぶんごと 認知症は自分事

～認知症について考える～

現在、85歳以上の4人に1人がかかっていると言われている認知症。平成26年度の警察庁の調査によると、家を出たまま行方不明になってしまう全国の認知症の高齢者は、年間1万人を超す事態になっています。少子高齢化の世の中、今後認知症患者の数はますます増えていくことが想定されます。また、認知症は40代で発症することもあり、決して「他人事」とは言えません。この機会に認知症を「自分事」としてとらえ、個人や地域でできることについて一緒に考えてみませんか。

① 認知症を知る

認知症とは

認知症は脳の病気です。「あの人が誰だっけ。ほら、あの人…」このような物忘れの経験は誰でもあります。物忘れは自然な老化によるもので、年を重ねると起こります。

一方、脳に何らかの原因で障がいが起きて機能が低下する病気が認知症です。主な症状に、物忘れや判断力の低下などがあり、日常生活に支障を来すことがあります。認知症は、高齢者に限らず誰でもなり得る病気です。認知症のさまざまな問題に向き合うためには、まず正しく理解することが重要です。

認知症の初期症状

最も多い症状は、同じことを何度も言う、聞き返す、日にちを間違えるなどです。

少しでもおかしいと思ったら、まずはかかりつけの医師や地域包括支援センターにご相談ください。

認知症は、早期発見と治療が有効です。病院を受診する際には、発症時期や症状、症状発生の頻度、今までにかかった病気や飲んでいる薬などの情報をまとめておきましょう。

実録

ある認知症の相談の事例
～Aさんのケース～



地域包括支援センター
佐藤智子 保健師

◎きっかけ

4月のある日のこと。市内に住むAさんの妹が地域包括支援センターに相談に来ました。70歳のAさんは、半年ほど前に仕事を辞めてから物忘れが多くなったそうですが、足腰は丈夫で自炊や買い物なども不自由していません。妹は「年をとったんだ」と思っていたそうです。しかし、今年に入り自宅の家賃を滞納したり、20年前に住んでいた家に行ってしまったことがあったため、認知症ではないかと思いつつ、相談に来たのです。

私たち職員がAさん宅に訪問すると、生活はきちんとしているようで元気な様子でしたが、同じ話を何度もしたり、質問への返答が曖昧だったりしたため、妹たちの協力を得ながらかかりつけの病院に相談することにしました。

◎経過

Aさんは薬を処方されています。

だが、毎日もらいに行ってしまう「記憶障がい」や、初夏に冬のジャンパーを着るなどの「見当識障がい」の症状があり、6月に入ると徘徊症状が出てきました。

センターで「命のカプセル」の使用や介護保険申請などの支援をしていた矢先のこと、Aさんが朝方一人で家を出たまま戻らないことがありました。家族が懸命に探す中、捜索から3時間後にAさんは例幣使街道の真ん中を歩いているところを警察に保護されました。地域の方からの通報が複数警察に入っていたため、早期発見につながりました。

◎現在

Aさんは認知症の治療を開始しています。このようなことが私たちの住む市内で日々起きています。認知症の相談も年々増えています。認知症は決して特別な病気ではありません。警察だけではなく「地域で見守る目」が必要です。

※Aさんの状況について、ご家族の同意を得て相談経緯をそのまま紹介しました。ご家族は「認知症に悩む方への何かの助けになれば」との思いから掲載を了解してくれました。

② 認知症を知る

日光市世界アルツハイマーデー
2015

認知症への理解を深め、個人や地域の問題として考える機会として毎年開催しているイベントです。今年度の内容について詳しくは、「情報なびイベント情報」35ページをご覧ください。

認知症サポーター養成講座

認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、見守りなど自分のできる手助けをする人のことです。

市は、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指すため、認知症サポーター養成講座を開催していま

③ 認知症を支える

いざという時の命綱「命のカプセル」

講座では、認知症の人への関わり方や基礎知識を学びます。講座終了後、認知症サポーターの証し「オレンジリング」を配付します。6月30日現在の市の認知症サポーターの数は4,419名です。

講座の開催日や受講方法などについて詳しくは、地域包括支援センターまでお問い合わせください。

命のカプセルは、氏名や連絡先などを記入したシートを携帯するための容器です。認知症の方の徘徊や、災害発生時の支援のために役立てています。記載内容は、住所、氏名、

家族に認知症・若年性認知症の家

電話番号、生年月日、性別、血液型、緊急連絡先(2箇所)、かかりつけの病院名、病名、処方箋です。なお、カプセルにはネットワークスタンプとキーホルダータイプの2種類があります。



命のカプセル

毎月第3月曜日の午前10時～正午に、市民活動支援センターで交流や介護のための情報交換などを行います。認知症の方も家族も安心して集える場です。連絡先は、☎(22)2271です。

便利なインターネットのサービスをご利用ください

にっこう認知症安心メール

認知症の方が行方不明になった際に、早期の保護に役立てるための情報配信メールを送信しています。

平成26年9月1日のサービス開始以来、6月30日現在で838名が登録しています。なお、これまでに2件の情報を配信しています。

登録は、<https://service.sugumail.com/nikko/member/>にアクセスするか、携帯電話やスマートフォンからは、右のQRコードをご利用ください。



日光市認知症ケアサイト

家族や自分自身の認知機能を簡単に確認することができるサイトです。

なお、チェックは簡易なものであり、認知症の診断ではありません。認知機能に関して気になる場合は、かかりつけの医師や地域包括支援センターへご相談ください。

アドレスは、http://fishbowlindex.net/nikkon/EoDfJxfBQqW5_DUyBsv5qw/Menu.plです。なお、右のQRコードからもアクセスできます。



おわりに

現在、認知症の特効薬はありません。認知症になっても、自分らしく暮らせる社会を目指すためにはどうしたらよいでしょうか。病気の早期発見や治療はもちろん重要ですが、私たちにできることは、周囲の人々の理解や環境を整えることです。認知症は他人事ではありません。もし自分の大切な人が認知症になったら...自分でできることから始めてみましょう。

くわしくは

- 市地域包括支援センター ☎(21)2137
- 藤原・栗山地域包括支援センター ☎(76)3333
- 日光・足尾地域包括支援センター ☎(25)3255
- 今市東地域包括支援センター ☎(26)6537
- 今市南地域包括支援センター ☎(25)6444
- 今市北地域包括支援センター ☎(21)7081
- 高齡福祉課 高齡福祉係 ☎(21)5100
- 24時間対応フリーダイヤル ☎0120(277)226

